

試験研究成果普及情報

部門	漁場環境・生産基盤	対象	研究
課題名：東京湾小型底びき網のクラゲ分離漁具開発			
<p>[要約] 東京湾で操業する小型底びき網漁業では、初夏から秋にかけて大量に発生するクラゲ類（ミズクラゲ等）が入網し、漁具の破損や漁獲物の鮮度低下などの問題が起きている。そこで、クラゲ類を漁獲物と分離し、外部へ排出することができる漁具を開発した。</p>			
フリーワード ^① 東京湾 小型底びき網 漁具開発 クラゲ対策			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター生産技術研究室	
	協力機関	独立行政法人水産総合研究センター 水産工学研究所 漁業生産・情報工学部 漁具漁法グループ 内湾底びき網連絡協議会	
実施期間	2005年度～2009年度		

[目的及び背景]

東京湾で操業する小型底びき網漁業では、初夏から秋にかけて大量に発生するクラゲ類（ミズクラゲ等）が入網するため、漁具の破損や漁獲物の鮮度低下などの問題が起きている。漁家経営が悪化する大きな要因となっている。そこで、クラゲ類を漁獲物と分離し、外部へ排出することが出来る漁具の開発が望まれている。

[成果内容]

1. 底びき漁具（通称スズキ網）内にビデオカメラを取り付け、クラゲと漁獲物の行動把握を行った結果、網上部からクラゲを排出する方法が適していることが分かった。
2. クラゲを分離排出するため、網の中に網地とワイヤー、ロープで構成されたクラゲ分離誘導装置を取り付けることにより（図1）、入網したクラゲの5割以上を排出することができた。
3. 網上部とクラゲ分離誘導装置先端部の間に角目の漁獲物逃避防止仕切網を取り付けることにより（図2）、主たる漁獲物であるスズキの逃避を重量ベースで2割以下に抑えることができた。
4. 開発漁具は安価で容易に作成することができ、作業性能は通常漁具と変わらない。
5. クラゲを完全に排出することはできないが、この開発漁具を用いることにより、クラゲが多く発生する時期（初夏～秋）でも操業が可能で、漁具の破損や漁獲物の品質低下を防ぐことができる。

また、この時期はスズキの単価が高いため、漁獲量向上による収入増加が期待できる。

[留意事項]

- ・網の構造が船の規模や地区によって異なるため、導入の際には漁具の構造を把握した上で普及導入を図る必要がある。

[普及対象地域]

東京湾小型底びき網漁業者

[行政上の措置]

[普及状況]

東京湾小型底びき網漁業者によるクラゲ分離漁具実証化試験中。

[成果の概要]

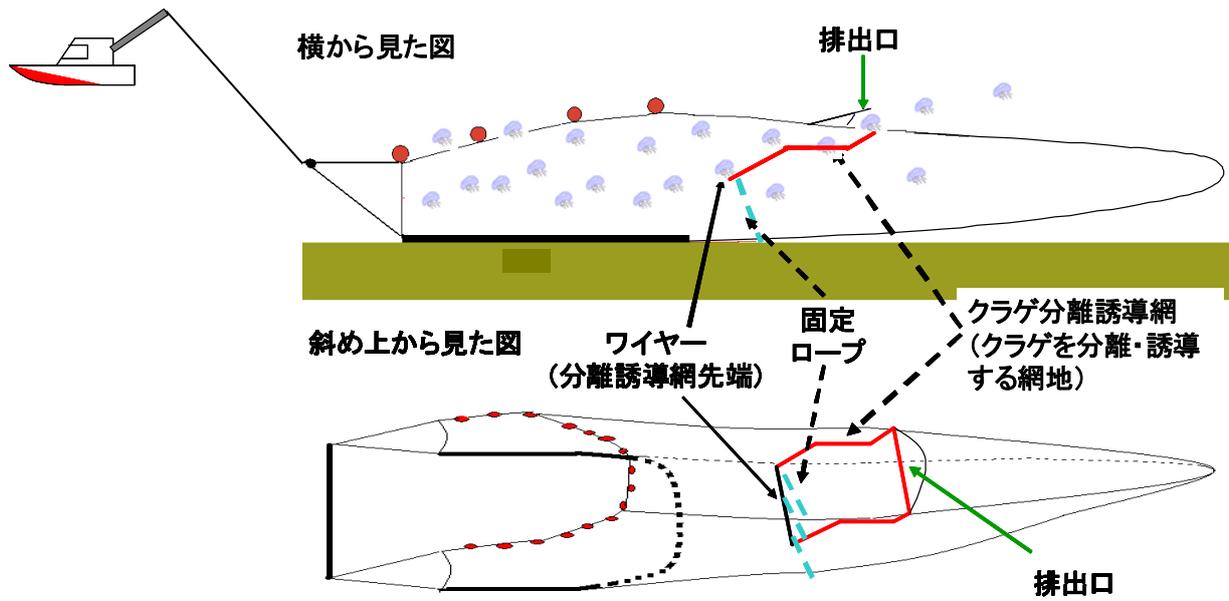


図1 クラゲ分離誘導装置模式図

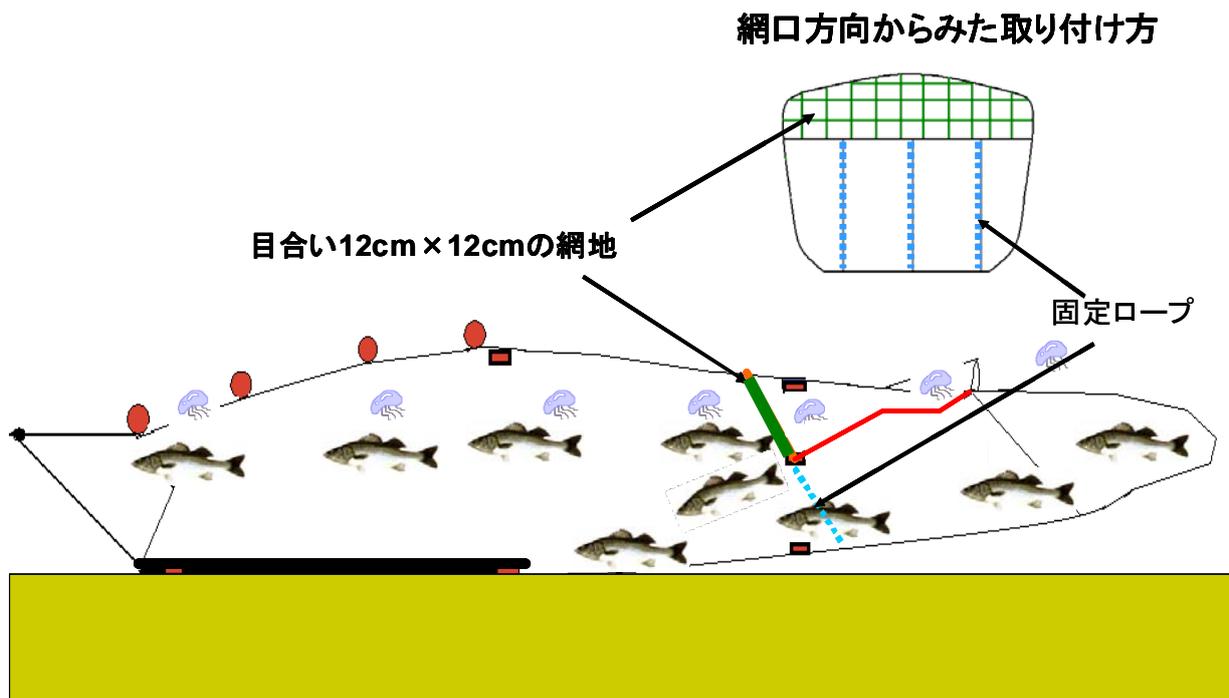


図2 漁獲物逃避防止仕切網を取り付けたクラゲ分離漁具

[発表及び関連文献]

22年度日本水産工学会にて発表予定。

[その他]

千葉県東京湾小型底びき網漁業包括的資源回復計画作成・普及推進事業の一環として実施した。